

会記・Proceedings

魚類学雑誌
48(2): 127-133

2002年度 年会のお知らせ

2002年度年会の予定をお知らせします。詳細は2002年5月に出版される魚類学雑誌49巻1号に掲載します。

期 日：2002年10月11日(金)~10月14日(月)

11日 編集委員会・評議員会

12-14日 研究発表会およびシンポジウム

会 場：信州大学松本キャンパス

〒390-8621 松本市旭3-1-1

備 考：市内ホテル・保養施設を申し込み者に限り年会事務局で斡旋する予定です。

シンポジウム・セッションの申し込みについて

2002年度年会でシンポジウムまたはセッションを計画されている会員は下記の要領で申し込み書類を作成し、郵便で事務局までお送りください。会場および日時の制約上多数の申し込みがある場合には調整を計りますので、あらかじめご了承下さるようお願いします。セッションの主旨については魚類学雑誌45巻2号の会記を参照してください。

申込先：〒260-8682 千葉県中央区青葉町955-2

千葉県立中央博物館内

日本魚類学会事務局 須之部友基

TEL: 043-265-3111

FAX: 043-266-2481 e-mail: kame7252@yc4.so-net.ne.jp

必要事項：(1) 標題、(2) 企画者氏名、(3) 趣旨説明 (1000字以内)、(4) 演者と演題、(5) 連絡先住所・氏名 (電話、ファックス、e-mail)。なお、標題と演者・演題は暫定案でも結構ですが、内容が明瞭にわかるようにして下さい。ただし、実施時の内容と大きく異なる暫定案を作成することは避けて下さい。

申込締切：2002年1月31日

2001年度第1回役員会

2001年2月9日(金)、於 国立科学博物館・分館

出席者：尼岡、川瀬、河野、松浦、宮、西田、岡部、瀬能、須之部、上野、中川(学会事務センター)

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項 編集：本年度の投稿原稿は英文誌8篇、和文誌1篇、会計：学会事務センターの中川庸幸氏より2000年度取支計算、2002年度予算案の報告があった。会費の自動振り込みについて検討した結果、今回は見送ることとなった。シュプリング社への契約料支払いのため会費を1ヶ月早く請求することとなった。

3. 2001年度年会について シンポジウム「生物多様性研究のモデル脊椎動物としてのトゲウオ類-分子から行動・保全まで」(コンビナー：後藤晃・高田啓介・森誠一)および「アユの生物学と保全」(コンビナー：西田睦・井口恵一朗・立原一憲・四宮明彦)の申し込みがあり承認された。自然保護委員会を年会開催中に開くこととなった。
4. 外来魚問題について 瀬能宏氏より外来魚に関する学会の対応について経過報告があった。

2001年度第2回役員会

2001年4月13日(金)、於 国立科学博物館・分館

出席者：尼岡、林、川瀬、河野、松浦、宮、西田、岡部、瀬能、篠原、須之部、上野

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項 編集：本年度の投稿原稿は英文誌23篇、和文誌2篇、会計：シュプリング社への契約料支払いのため学会事務センター、シュプリング社と協議し、会費を1ヶ月早く請求することで一致した。庶務：ホームページへのアクセス数はこれまで25,457件あった。
3. 講演要旨のバックナンバーの取扱いについて 学会事務センターに保管されている年会講演要旨のバックナンバーは、記録用に各号一部ずつ庶務が保管し、残りはオークションにかけることになった。
4. 日本魚類学会公開シンポジウムについて 公開シンポジウム「ブラックバス問題を科学する-なにをいかに守るのか?」の内容について検討した。
5. 自然保護委員会開催にあたっての旅費について 前項のシンポジウムおよび委員会への参加者への旅費について協議し、当座は予備費から捻出するが、今後の財源についてはさらに検討することになった。
6. 編集委員会からの報告 河野博氏より3月31日(土)に行われた編集委員会の結果報告があり、内容について協議した。
7. その他 日本水産学会創立70周年記念シンポジウムに水産研連の参加学会として、活動内容を紹介する展示をすることになり、川瀬裕司、河野博、松浦啓一、西田睦の各氏が担当することになった。

2001年度第3回役員会

2001年6月1日(金)、於 国立科学博物館・分館

出席者：尼岡、川瀬、河野、松浦、宮、西田、岡部、瀬能、須之部、上野

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項 副会長：南アフリカ、ダーバンで開催された第6

回インド・太平洋国際魚類学会について報告があった。編集：本年度の投稿原稿は英文誌38篇、和文誌5篇。庶務：日本水産学会創立70周年記念シンポジウムにおける参加会場について説明した。会長選挙の実施について報告があった。

- LINKへの登録案内について 英文誌の発行がシュプリンガー社に移行したため、英文誌の電子バージョンがLINK Information Serviceに掲載されることになり、48巻3号に登録案内を同封することが承認された。
- その他 公開シンポジウム「ブラックバス問題を科学する—なにをいかに守るのか?」の進捗状況について説明があった。学会の発展に協力した個人・団体に感謝状を出すことを検討した。日本魚類学会史編集委員会を設立することとなった。

2001年度第4回役員会

2001年7月23日(月)、於 国立科学博物館・分館

出席者：尼岡、川瀬、河野、松浦、宮、岡部、篠原、須之部、中川(学会事務センター)

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項 編集：本年度の投稿原稿は英文誌50篇、和文誌5篇。会計：2000~2002年度予算の収支、概算および案について報告があった。
3. 会長(2004~2005年度)選挙開票結果 投票総数36、有効票34、無効票2；西田睦(12票)、尼岡邦夫(4票)、後藤晃(3票)、仲谷一宏(3票)、その他11名(1票)、白票1。以上の結果、西田睦氏が次期会長に当選した。
4. 「日本分類学会連合(仮称)」について 松浦啓一氏が設立準備会議について報告し、学会として協力することとなった。
5. その他 日本水産学会創立70周年記念シンポジウムに出展するポスターについて検討した。

2001年度第1回自然保護委員会

2001年10月6日(土)、鹿児島大学工学部

出席者：後藤、細谷、小早川、河野、丸山、松浦、酒井、佐野、瀬能、鈴木、田北、渡辺

1. 委員会発足後から現在までの活動状況
 - 1) 2001年2月9日付けで水産庁等へ提出した「今後のブラックバス政策に関する要望書」について経過等の説明があった。
 - 2) 自然保護委員会主催の公開シンポジウム「ブラックバス問題を科学する—なにをいかに守るのか?」(6月30日、国立科学博物館分館)について総括された。
 - 3) 「外来魚・ブラックバス—河川・湖沼における侵略者」(恒星社厚生閣)の出版企画と進行状況について説明があった。
2. 各部会の活動状況について

外来魚・希少淡水魚・希少海産魚問題の各検討部会より活動状況が報告された。特に外来魚問題では先行しているブラックバスについてのこれまでの取り組みとその成果について説明があった。

3. 今後の活動方針と計画について

- 1) 第2回公開シンポジウム「日本の河川・湖沼と海にすむ希少魚類—現状把握と保全に向けて」(仮題)の企画について議論された。会場は神奈川県立生命の星・地球博物館を候補地として調整を進めることになった。
- 2) 各部会での活動計画について説明があった。外来魚問題検討部会はブラックバスについて引き続き取り組んでいく。希少淡水魚問題については希少魚以外の魚類や生息地保全についても目を向けていく必要性が指摘された。希少海産魚問題についてはまず対象となる魚類の選定が必要であること、分布の特性から国外での状況も考慮する必要性が強調された。
- 3) 自然保護委員会の出版活動のあり方について議論され、普及啓発と同時に委員会活動の運営資金を得るための一手法として位置づけることで合意した。
- 4) マスコミ等への対応について議論され、臨機応変に委員会の立場を明確にしていくことで合意した。
- 5) 委員会としての活動体制の整備と予算の確保について議論され、学会からの予算確保と同時に、シンポジウム等の運営により資金確保の努力をすることで合意した。

2001年度 年会

2001年度年会在2001年10月5日(金)~8日(月)に鹿児島大学工学部等において開催され、以下の会合があった。

1. 2001年度第2回編集委員会

10月5日(金)12:00~14:30に編集委員13名が出席して2001年度第2回編集委員会が開かれた。議題は以下の通り。1) 和文誌における命名者のandあるいは&の使用について。2) 和文誌における分類用語について。3) 和文誌主任編集委員の交代と今後について。4) IRの短報のページ数について。5) IRの迅速な出版について。6) IRの論文間の余白について。7) 著者の順序について。8) 投稿論文に対する倫理規定の策定について。9) PDFファイルでの原稿の受け付けについて。10) その他。

2. 2001年度第1回評議員会

10月5日(金)15:00~17:00に評議員27名(他に委任状23名)が出席して開催された。議長には矢部衛氏が選出された。議事は以下の通りであった。(1) 2000~2001年度会務報告。(2) 2000~2001年度編集報告。(3) 2000年度決算報告、同監査報告、および2001年度報告。(4) 2002年度収支予算(案)。(5) 別刷り費の滞納について。(6) 日本学術会議に関する報告。(7) 動物分類学関連学会連合に関する報告。(8) 自然史学会連合に関する報告。(9) 自然保護委員会に関する報告。(10) 学会賞について。(11) 名誉会員の推薦について。(12) その他。

以上の議題のうち、2000年度決算報告、同監査報告、および2001年度報告、2002年度収支予算(案)については、原案通り承認された。編集委員として望岡典隆(稚魚担当)、渡辺勝敏(淡水魚担当)の各氏が、編集顧問には沖山宗雄、水野信彦の両氏が新たに加わることとなった。和文誌主任編集委員については、2002年1月から、後藤晃氏から片野修氏に交代すること

となった。学会賞の選考委員の決選投票が行われ、最終的に後藤見、沖山宗雄、宮正樹、桑村哲生の4氏に決定した。名誉会員として上野輝彌、Theodore W. Pietschの両氏が推薦され承認された。今後の年会の開催地は、2002年度信州大学、2003年度京都大学、2004年度琉球大学に決定した。

3. 2000年度第1回総会

2000年10月6日(土) 11:15-12:00。出席者70名。議長には矢部衛氏が選出された。議事は以下の通りであった。(1) 2000-2001年度会務報告。(2) 2000-2001年度編集報告。(3) 2000年度決算報告、同監査報告、および2001年度報告。(4) 2002年度収支予算(案)。(5) 別刷り費の滞納について。(6) 日本学術会議に関する報告。(7) 動物分類学関連学会連合に関する報告。(8) 自然史学会連合に関する報告。(9) 自然保護委員会に関する報告。(10) 学会賞について。(11) 名誉会員の推薦について。(12) その他。

名誉会員として上野輝彌、Theodore W. Pietschの両氏が推薦され承認された。議事終了後、オークション売上金による旅費援助として10名に1人20,000円が授与された。

4. 研究発表会・シンポジウム

第1会場・第2会場・ポスター会場に分かれて137題の研究発表が行われた。シンポジウムは鹿児島県市町村自治会館で行われ「アユの生物学と保全」(参加者約150名)および「生物多様性研究のモデル脊椎動物としてのトゲウオ類-分子から行動・保全まで」(参加者約50名)が開催された。参加者は開催期間を通じて約270名であった。

5. 懇親会

懇親会は10月6日(土) 18:45-21:00に200名の参加者で盛大に開催された。

6. 公開特別講演会

10月8日(日) 18:00-19:00。「シーボルト“ファウナ・ヤポニカ・魚類編”の成立」のタイトルで山口隆男氏による公開特別講演会が行われ約200名が参加した。

7. オークション

年會会場・懇親会場では書籍等のオークションが行われ、411,490円の基金を得ることができた。

8. 評議員会・総会抜粋資料

会員数
(2001年7月現在)

	国内	国外	計
個人会員	1126 (+6)	157 (-11)	1283 (-5)
名誉会員	4	4 (+1)	8
団体会員	93 (-3)	0	93 (-3)
賛助会員	2 (-1)	0	2 (-1)
購読	46 (16)	10 (-64)	56 (-70)
寄贈	5	10 (-1)	15 (-1)

注1. ()内は2000年7月時点に対する増減

会員数および入退会者数の推移

年度	国内個人会員			国外個人会員			退会 処分
	会員数	入会	退会	会員数	入会	退会	
91	913	30	12	211	8	1	17
92	920	47	26	214	5	3	7
93	940	55	18	222	8	7	18
94	1002	30	10	176	7	6	58
95-96	1056	131	41	192	20	6	13
96-97	1106	74	21	177	9	2	34
97-98	1121	70	27	170	9	2	55
98-99	1139	72	29	172	11	3	29
99-00	1120	61	44	168	9	3	43
00-01	1126	69	43	157	13	5	44

注1. 1994年度以前の会員数は3月上旬、入退会者数は3月末日に集計

注2. 1995-1996年度の集計期間は1995年1月-1996年7月; 1996-1997年度の集計期間は1996年8月-1997年7月; 1997-1998年度の集計期間は1997年8月-1998年6月; 1998-1999年度の集計期間は1998年8月-1999年7月; 1999-2000年度の集計期間は1999年8月-2000年7月; 2000-2001年度の集計期間は1999年8月-2000年7月

1999-2000年度編集報告

1) 投稿論文

2000年: 76篇(英文誌63篇, 和文誌13篇)

投稿論文内訳

英文誌: 分類28; 系統2; 形態7; 分布0; 行動生態3; 生態一般11; 仔稚魚8; 遺伝4; 生理0; 組織0

和文誌: 分類2; 系統2; 形態1; 分布3; 行動生態1; 生態一般2; 仔稚魚0; 遺伝2; 生理0; 組織0

2001年8月31日現在: 69篇(英文誌61篇, 和文誌8篇)

投稿論文内訳

英文誌: 分類20; 系統3; 形態3; 分布1; 行動生態2; 生態一般17; 仔稚魚10; 遺伝2; 生理1; 組織2

和文誌: 分類0; 系統1; 形態0; 分布3; 行動生態0; 生態一般1; 仔稚魚3; 遺伝0; 生理0; 組織0

2) 出版に要した期間

英文誌(46巻3号から48巻2号まで)

受付から出版までの日数

最短期間: 208日(7カ月); 最長期間: 795日(27カ月); 平均期間: 424日(14カ月)。

和文誌(45巻2号から47巻1号まで)

受付から出版までの日数

最短期間: 109日(4カ月); 最長期間: 531日(18カ月); 平均期間: 360日(12カ月)。

日本魚類学会 2000 年度収支計算書
(2000 年 1 月 1 日～2000 年 12 月 31 日)

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	予算-決算
会 費	12,190,000	12,651,346	-461,346
正 会 員 会 費	10,170,000	10,451,000	-281,000
団 体 会 員 会 費	970,000	1,128,000	-158,000
賛 助 会 員 会 費	60,000	80,000	-20,000
外 国 会 員 会 費	990,000	992,346	-2,346
購 読 料	804,000	729,000	75,000
英 文 誌 ・ 和 文 誌 購 読 料	576,000	558,000	18,000
英 文 誌 購 読 料	228,000	171,000	57,000
バ ッ ク ナ ン バ ー 収 入	180,000	129,530	50,470
広 告 料 収 入	300,000	270,000	30,000
著 者 負 担 印 刷 代	1,000,000	1,286,431	-286,431
刊 行 助 成 費	2,320,000	2,200,000	120,000
雑 収 入	200,000	732,373	-532,373
入 会 金	50,000	59,000	-9,000
オ ー ク シ ョ ン 積 立 金 取 崩 収 入	250,000	160,000	90,000
名 簿 積 立 金 戻 入 収 入	400,000	400,000	0
会 誌 発 行 引 当 金 戻 入 収 入	580,000	580,000	0
当 期 収 入 合 計	18,274,000	19,197,680	-923,680
前 年 度 繰 越 金	4,604,857	4,604,857	0
合 計	22,878,857	23,802,537	-923,680

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	予算-決算
会 誌 発 行 費	8,200,000	8,287,108	-87,108
名 簿 製 作 費	400,000	365,150	34,850
編 集 費	2,200,000	2,104,135	95,865
会 誌 送 付 費	950,000	991,453	-41,453
役 員 送 付 費	50,000	50,013	-13
シ ン ボ ジ ム 費	200,000	200,000	0
消 耗 品 費	50,000	0	50,000
通 信 費	400,000	353,430	46,570
諸 印 刷 費	150,000	72,720	77,280
年 会 運 営 費	250,000	250,000	0
年 会 参 加 補 助 金	200,000	160,000	40,000
人 交 件 費	20,000	0	20,000
交 業 務 委 託 費	400,000	413,160	-13,160
什 器 備 品 費	2,700,000	2,439,476	260,524
協 賛 金	100,000	0	100,000
雜 費	50,000	43,152	6,848
國 際 会 議 繰 入 金	350,000	351,151	-1,151
国 際 会 議 繰 引 金	10,000	1,584	8,416
会 誌 発 行 製 引 金	580,000	550,000	30,000
名 簿 製 損 金	200,000	200,000	0
予 備 費	0	9,946	-9,946
予 備 費	100,000	0	100,000
当 期 支 出 合 計	17,560,000	16,842,478	717,522
次 年 度 繰 越 金	5,318,857	6,960,059	-1,641,202
合 計	22,878,857	23,802,537	-923,680

貸借対照表

2000年12月31日
(単位：円)

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
流動資産		流動負債	
預け金	7,675,104	未払費用	3,646,444
小口現金	20,150	前受会費	4,484,000
前払費用	83,370	会誌発行引当金	550,000
未収入金	336,000	名簿製作積立金	200,000
立替金	510,909	国際会議繰入金	1,482,852
定期預金	7,231,023	オークション積立金	535,305
定額信託(ヒット)	2,002,104		
		次年度繰越金	6,960,059
		前年度繰越金額	4,604,857
		今年度収支差額	2,355,202
合計	17,858,660	合計	17,858,660

財産目録

2000年12月31日
(単位：円)

資産の部		摘要	金額
科目			
流動資産			
預け金	(財)日本学会事務センター	7,675,104	
小口現金	学会幹事手元金	20,150	
前払費用	通信費(2001年度会費請求書等郵)	83,370	
未収入金		336,000	
	著者負担印刷代	256,000	
	広告学会誌別刷料代	80,000	
立替金	第一勸業銀行本郷支店	510,909	
定期預金	東洋信託銀行上野支店	5,212,866	
定期預金	東洋信託銀行上野支店	2,018,157	
定額信託(ヒット)	東洋信託銀行上野支店	2,002,104	
合計		17,858,660	

負債の部

(単位：円)

科目	摘要	金額
流動負債		
未払費用		3,646,444
	編集幹事手許金精算差額分	11,110
	欧文誌 Vol. 47-4 会誌製作費	1,586,001
	和文誌 Vol. 47-2 会誌製作費	1,142,529
	会誌発送費等(欧文誌 Vol. 47-4, 和文誌 Vol. 47-2)	299,646
	別刷代金等(欧文誌 Vol. 47-4, 和文誌 Vol. 47-3)	607,158
前受会費	2001年度以降分会費	4,484,000
会誌発行引当金		550,000
名簿製作積立金		200,000
国際会議繰入金		1,482,852
オークション積立金		535,305
合計		10,898,601

繰越金

(単位：円)

科目	摘要	金額
前年度繰越金		4,604,857
今年度収支差額		2,355,202
合計		6,960,059

試算表

日本魚類学会

		2001年度予算額		2001年6月30日現在	
預小定金未前立				2,066,377	
金				150,150	
口期信託				5,012,866	
託				4,003,307	
替				50,000	
期払受発作会シ度				0	
誌簿際一年				-137,288	
定未前会名国才前				2,218,157	1,886,522
					68,000
					0
					200,000
					1,482,852
					535,305
					6,960,059
小	計			13,363,569	11,132,738
会		12,227,000			11,176,992
正団費外		10,070,000			9,848,000
購		1,100,000			396,000
英和		60,000			20,000
パ		997,000			912,992
広		90,000			178,950
著		0			135,000
刊		0			42,750
雑		90,000			1,200
入		100,000			96,000
オ		300,000			30,000
ク		1,000,000			408,107
シ		2,200,000			0
ョ		200,000			147,282
ン		50,000			38,000
引		200,000			0
会		550,000			550,000
英和編		9,500,000		8,547,547	
会		6,500,000		6,945,750	
シ		2,500,000		1,224,252	
消		500,000		377,545	
通		950,000		429,915	
諸		50,000		0	
年		200,000		0	
人		50,000		0	
交		400,000		136,210	
業		150,000		102,720	
什		250,000		0	
協		200,000		0	
雑		20,000		0	
国		400,000		87,360	
会		2,900,000		945,000	
名		100,000		0	
雑		50,000		0	
予		300,000		45,748	
		10,000		0	
		550,000		0	
		200,000		0	
		0		0	
		100,000		100,000	
小	計	16,380,000	16,917,000	10,394,500	12,625,331
前次			5,318,857		
年		5,855,857			
度					
繰					
越					
金					
合	計	22,235,857	22,235,857	23,758,069	23,758,069

日本魚類学会2002年度収支予算
(2002年1月1日から2002年12月31日)

収入の部

(単位：円)

科 目	01年度予算額	02年度予算額	備 考
会 員 費	12,227,000	12,250,000	
正 会 員 会 費	10,070,000	10,210,000	1,110名×10,000円×92%
団 体 会 員 会 費	1,100,000	1,070,000	94団体×12,000円×95%
賛 助 会 員 会 費	60,000	40,000	2社×20,000円×100%
外 国 会 員 会 費	997,000	930,000	*1
購読料(バックナンバー収入含)	90,000	200,000	当年度発行和文誌売上、バックナンバー売上収入
和 文 誌 購 読 料	90,000	—	
バックナンバー収入	100,000	—	
広 告 料 収 入	300,000	240,000	4社×2回分×30,000円
著 者 負 担 印 刷 代	1,000,000	1,000,000	
刊 行 助 成 費	2,200,000	2,400,000	
雑 収 入	200,000	200,000	
入 会 金	50,000	50,000	
オークション積立金取崩収入	200,000	200,000	
名簿積立金戻入収入	0	400,000	
会誌発行引当金戻入収入	550,000	600,000	
当期収入合計	16,917,000	17,540,000	
前 年 度 繰 越 金	6,960,059	7,497,059	
合 計	23,877,059	25,037,059	

*1 {111名×(7,000円-350円)×80%}+{44名×(10,000円-500円)×80%}

支出の部

(単位：円)

科 目	01年度予算額	02年度予算額	備 考
会 誌 発 行 費	9,500,000	10,200,000	
英 文 誌	6,500,000	7,200,000	IR Vol. 49-1~4 (650万円+カラーページ代)
和 文 誌	2,500,000	2,500,000	魚雑 Vol. 49-1, 2
編 集 費	500,000	500,000	
名簿製作製	0	400,000	
会誌発行送	950,000	950,000	IR Vol. 49-1~4, 魚雑 Vol. 49-1, 2 発送郵税等
役員会合	50,000	50,000	
シンポジウム	200,000	200,000	2002年度年会事務局(信州大学)へ
消耗品	50,000	50,000	
通信費	400,000	400,000	
印刷費	150,000	100,000	
年会運営	250,000	250,000	2002年度年会事務局(信州大学)へ
年会参加補助	200,000	200,000	2002年度年会(信州大学)時
人件費	20,000	20,000	
旅交通	400,000	—	役員会・編集委員会・学会賞選考委員会・自然保護委員会出席旅費
業務委託	—	900,000	
業務委託品	2,900,000	2,900,000	
協賛	100,000	100,000	
雑費	50,000	50,000	
国際会議	300,000	300,000	
国際会議	10,000	10,000	
会誌発行	550,000	600,000	
名簿製作	200,000	200,000	
雑損	0	0	
予備	100,000	100,000	
当期支出合計	16,380,000	17,980,000	
次年度繰越	7,497,059	7,057,059	
合 計	23,877,059	25,037,059	

注) 01年度の前年度繰越金は00年度決算額による。